

教科等研究会（中学校道德部会）

令和6年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

自己を見つめ 自己の生き方についての考えを深める道德科授業の創造

2 研究経過

	期 日	場 所	内 容
第1回	6月 3日	甲佐小学校	○前年度の研究のまとめの紹介 ○研究テーマ協議, 研究計画, 研究組織づくり等 ○県大会に向けての授業づくりについて
第2回	8月19日	甲佐中学校	○県道研事務局より県大会について ○学習構想案検討, 授業づくり
第3回	9月 3日	甲佐中学校	○県大会に向けて事前授業及び授業研究会 教材名:「ごみ箱をもっと増やして」 (「新訂 新しい道德1」東京書籍) 内容項目:C(10)遵法精神, 公德心 授業者:甲佐町立甲佐中学校 第1学年 教諭 小幡 侑貴
第4回	10月23日	甲佐中学校	○第64回熊本県道德教育研究大会上益城大会 教材名:「ごみ箱をもっと増やして」 (「新訂 新しい道德1」東京書籍) 内容項目:C(10)遵法精神, 公德心 授業者:甲佐町立甲佐中学校 第1学年 教諭 小幡 侑貴

3 研究の概要

(1) 研究の内容

今年度は、熊本県道德教育研究大会が上益城で行われるということもあり、昨年度から取り組んできたテーマ「自己を見つめ 自己の生き方についての考えを深める道德科授業の創造」を県大会主題に設定し、引き続き研究を重ねることとした。

「自己を見つめ」とは、生徒一人一人が道德的価値をもとに、これまでの自分と照らし合わせさらに考えを深めていくことである。そして「自己の生き方について考えを深める」とは、道德的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるという道德的価値の自覚を深めている過程であり、このような授業を目指して授業づくりに取り組む必要がある。そこで、道德部会では次の2つの視点を設定し、授業づくりを中心に研究を行うこととした。

視点1：生徒が主体的に考え、他者と共に考えを深める授業展開の工夫

視点2：多面的・多角的に考える発問・板書の工夫

(2) 成果と課題

① 成果

今年度は、県大会に向けて小・中合同での研究テーマを設定し、研究を重ねていった。第1回では、研究の進め方や上益城の授業の基本の型等について協議し、研究の方向性を確認することができた。

また、第2回からは模擬授業や構想案検討会を実施し、「生徒が主体的に考え、他者と共に考えを深める授業展開の工夫」や「多面的・多角的に考える発問・板書の工夫」を中心として協議を行った。

県大会参加者からは、「生徒同士の意見を全体で共有することで、学びが深まることを感じた。また、振り返りをロイロノートで行うことで、板書やワークシートの内容をもとに、自分の振り返りを書くことができるので評価にも役立つと思った。」などの感想が出され、充実した会となった。

② 課題

県大会では、小学校低学年、中学年、高学年、中学校の4本の提案授業を行ったが、各部会の人数も少なくそれぞれに役割もあるため、小・中お互いに授業を参観し意見交流することは難しかった。

各学校の道徳部会担当から「上益城の授業の基本の型」や「取組の視点」について周知してもらったが、実践がわかりにくい部分もあったので、研究前と研究後の意識の差などアンケート調査を行う必要があった。

また、県大会で終わりではなく、今後も小・中連携しながら研究及び提案を続けていくことが、上益城の道徳教育の充実につながると感じた。

4 実践事例

(1) 授業の概要

授業においては、ごみ箱を増やすことに「賛成」か「反対」かを考えた後、新聞に投稿された3人の異なる意見を読み再度考えるという展開で、意見を出し合いながら議論していく中で生徒の考えが変わっていく様子が見られた。展開後半には、問い返しの発問を入れ、「ごみ箱を増やす」「増やさない」の問題ではなく、「もっと大切なことは何か」ということに気づかせ、ねらいに迫っていった。

(2) 学習構想案（授業者 甲佐町立甲佐中学校 教諭 小幡 侑貴）

1 学習構想

主題名	だれもが気持ちよく過ごせる社会を目指して（内容項目C(10)遵法精神、公德心）	
ねらいと教材	(1)ねらい 街の中にごみ箱を増やすかどうかの話し合いを通して、公德心について理解を深め、だれもが気持ちよく生活できるよりよい社会の実現のために努めようとする態度を育てる。 (2)教材名 ごみ箱をもっと増やして 出典「新訂 新しい道徳1(東京書籍)」	
評価の視点	評価の視点1 街の中にごみ箱を増やすべきかどうかの話し合いを通して、よりよい社会を築くためのルールやきまりについて多面的・多角的に考えている。	評価の視点2 だれもが気持ちよく過ごせる社会を目指して、自分自身の経験と重ね合わせながら発言したり書いたりしている。
	目指す生徒の姿	
公德心について理解を深め、だれもが気持ちよく生活できるよりよい社会の実現のために努めようとしている生徒		
主題に迫る学習課題（本時）		本主題で働かせる見方・考え方
だれもが気持ちよく過ごせる社会にするために大切なことは何だろう。		だれもが気持ちよく過ごせる社会について、多面的・多角的に捉え、今後の自己の生き方について考えを深めていくこと。
内容項目相互の関連的・発展的な指導，各教科等や体験活動等との関連的指導		
各教科等	道徳科	日常生活
【学級活動】 ○自分のことだけでなく周りに目を向け、だれもが過ごしやすい環境づくりを行う。	「選手に選ばれて」 C(10)遵法精神、公德心 主題名 義務について考えよう <hr/> 「ごみ箱をもっと増やして」（本時） C(10)遵法精神、公德心 主題名 だれもが気持ちよく過ごせる社会を目指して 街の中にごみ箱を増やすかどうかの話し合いを通して、公德心について理解を深め、だれもが気持ちよく生活できるよりよい社会の実現のために努めようとする態度を育てる。	【委員会活動】 ○よりよい学校生活にするための取組や活動について考える。 <hr/> 【掃除，給食当番】 ○使用したものは、決められた場所に片づけたり返却したりする。
【総合的な学習の時間】 集団宿泊教室 ○集団の一員としての自覚をもち、ルールやきまりを守って活動する。		

2 主題設定の理由

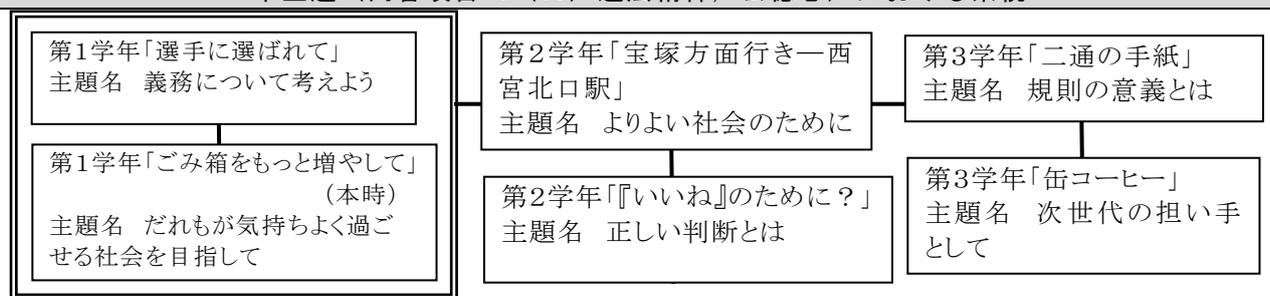
学習指導要領における該当箇所（ねらいや指導内容についての教師の捉え方）

本主題は、中学校内容項目 C(10)「法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること」を基にしたものである。

入学して間もない時期には、法やきまりに従えばそれでよいと考え、「ルールだから守る」と法やきまりを他律的に捉えている生徒が多い。法やきまりは自分たちを拘束するものとして反発したり、自分の権利は強く主張するものの、自分の果たさなければならない義務をなおざりにしたりする傾向も見られる。

指導に当たっては、法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、それを遵守することの大切さについての自覚を促す必要がある。また、自他の権利を大切にし、義務を果たすことで、互いの自由意志が尊重され、結果として規律ある安定した社会が実現することを理解した上で、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲を育て、日々の実践に結び付けることが重要である。

本主題（内容項目 C(10) 遵法精神、公德心）における系統



生徒の実態（生徒の学習状況や実態と教師の願い）

■主題に関する意識の状況

質問事項	よくある	ときどきある	あまりない	全くない
①教室にごみが落ちていたら拾いますか。	1人	13人	8人	1人
②ゴミ箱以外にごみを捨てたことがありますか。	2人	9人	3人	9人
③学校のルールやきまりを守らなかったことがありますか。	1人	4人	10人	8人
④学校のルールやきまりは必要だと思いますか。	12人	7人	4人	0人

■考察

アンケートの結果から8割以上の生徒がルールやきまりは必要だと答えている。ただ、自分自身がルールやきまりを守らなかったことがある生徒は、約22%（「よくある」「ときどきある」）いる。理由として、「急いでいるときに廊下を走ってしまうことがあるから」や「欲に負けるから」と答えている。また、ルールやきまりを守っている生徒についても、「怒られたくないから」と答える生徒が複数おり、自分や周りの人たちが過ごしやすくするためにルールを守ると考える生徒ばかりではない。遵法精神・公德心について、ルールだから守るという気持ちだけでなく、自分や他者が安心して過ごすことができるようにルールやきまりがあることを、多面的・多角的に捉えさせ、より深く学ぶことができるようにしたいと考える。

教材の価値（使用する教材の特質や具体的な活用方法）

本教材は、新聞への投稿と、それに対する3つの意見で構成されている。

投稿者が短期留学で行った米国にはゴミ箱が多かったが、日本には少なく不便に感じている。ゴミを持ち帰る啓発ポスターも目にするが、草むらなど人目につかない所には、ゴミがポイ捨てされている。このことから、町にゴミ箱をもっと増やした方がよいのではないかと投稿者は思っている。この投書に対して、「観光名所や公園には設置してほしい」「ゴミ箱の完全撤去を望む」「環境を守るためにゴミは持ち帰ろう」という意見が寄せられた。

これらの意見を通して、さまざまな考えやこれまで気がつかなかったことに触れ、自分の在り方を見つめ直し、ルールやきまりがどうあるべきか、また、だれもが気持ちよく過ごせる社会に大切なことは何かについて考えることができる教材である。

本教材を活用した授業においては、ゴミ箱を増やすことについて「賛成」か「反対」か考えることにより、多様な価値観に触れさせ、よりよい社会の実現のために努めようとする態度を育てていきたい。

3 指導に当たっての留意点

【視点1】児童生徒が主体的に考え、他者と共に考えを深める授業展開の工夫

- 導入では、事前にとったアンケートを活用し、生徒が主題に関わる問題意識をもてるようにする。
- 教材の提示を二回に分けて行うことで、記事の投稿者と自分を重ねて考え、「賛成」か「反対」かという自分の意見をもてるようにする。
- 振り返りの視点を示すことで自己を見つめやすくし、また、ロイロノートを活用することで振り返りの共有を行う。

【視点2】多面的・多角的に考える発問・板書の工夫

- ごみ箱を増やすことについて考える際に、「賛成」と「反対」に分けて板書することで、その理由を視覚的に捉えやすくし、考えを整理させられるようにする。
- 問い返しの質問を行うことで、本時の学習課題である「だれもが気持ちよく過ごせる社会にするために大切なこと」について考えを深められるようにする。

4 本時の学習

(1) ねらい

街の中にごみ箱を増やすかどうかの話し合いを通して、公德心について理解を深め、だれもが気持ちよく生活できるよりよい社会の実現のために努めようとする態度を育てる。

(2) 展開

※【工夫①②③④】は、視点1で挙げた工夫を示している。

過程	時間	学習活動 (○発問◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	<p>1 事前アンケートの結果を共有し、本時の見通しをもつ。</p> <p>○アンケート結果を見てみましょう。</p> <p>○この写真を見て、みなさんはどう思いますか。</p> <p>◇汚い。</p> <p>◇分別したほうがいい。</p>	<p>○事前アンケートの結果(「教室にごみが落ちていたら拾いますか」「ごみ箱以外にごみを捨てたことがありますか」)を提示することで、本時の内容を自分事として捉えることができるようにする。【工夫①】</p> <p>○ごみ箱からごみが溢れている写真を提示し、このままでは気持ちよく過ごせないことに気付かせる。</p>
<p>【学習課題】だれもが気持ちよく過ごせる社会にするために大切なことは何だろ</p>			
展開	35分	<p>2 教材を読み、道徳的価値について考える。</p> <p>(1) 日本のごみ箱を増やした方がよいか考える。</p> <p>○「投書の意見に賛成ですか。反対ですか。理由も含めて考えてみましょう。」</p> <p>◇賛成：ごみ箱がないとポイ捨てする。</p> <p>◇賛成：持ち帰るのが面倒だ。</p> <p>◇反対：増えても同じことが起こる。</p> <p>◇反対：ごみ箱が多いと邪魔になる。</p> <p>(2) 3人の投稿を読んで、もう一度考える。</p> <p>○3人の投稿を踏まえて、もう一度「賛成」か「反対」か考えてみましょう。</p> <p>◇賛成：ごみ箱がないところへは観光客は行きたくない。</p> <p>◇賛成：「ごみはごみ箱へ」の意識が高まる。</p> <p>◇賛成：ポイ捨てが減る。</p> <p>◇反対：ごみ箱が増えると動物が荒らす可能性がある。</p> <p>◇反対：ごみ箱が増えると費用がかかる。</p> <p>◇反対：ごみ箱の管理が大変。</p> <p>3 だれもが気持ちよく過ごせる社会について考える。</p> <p>○だれもが気持ちよく過ごせる社会にするために大切なことは何だと思えますか。</p>	<p>○教材文を分けて読み、生徒の思考を整理しやすくする。【工夫②】</p> <p>○「賛成」と「反対」の意見を分けて板書することで、視覚的にわかりやすくする。</p> <p>○A, B, Cの投稿内容について、フラッシュカードを使って確認を行うことで、それぞれの立場を視覚的に捉えられるようにする。</p> <p>○自分の考えの理由も書かせる。</p> <p>○ペアトークで自分の考えを伝えた後、全体交流をする。【工夫③】</p> <p>○「賛成」「反対」の理由を問い、共有させることで、どちらにもメリットとデメリットがあることに気付かせる。</p> <p>○問い返しにより、ごみ箱の増減が重要ではないことに気付かせ、「だれもが気持ちよく過ごせる社会にするために大切なことは何だろう。」という次の発問につなげる。</p> <p>★問い返し例：「ごみ箱を増やしたら解決するのか?」「ごみ箱を減らしたら解決するのか?」</p> <p>○自分の意見を整理させるために、書く活動を取り入れる。</p>
終末	10分	<p>4 自分自身を振り返る。</p> <p>○今日の学習を通して、これまでの自分とこれからの自分について書きましょう。</p>	<p>○ごみ箱設置に関する事例を挙げ、より内容項目へ迫る。</p> <p>○ロイロノートに振り返りシートを送り、「①今までは②今日学んで③これからは」の視点を示し、自己を振り返らせる。【工夫④】</p>

【評価の視点1】 街の中にごみ箱を増やすべきかどうかの話し合いを通して、よりよい社会を築くためのルールやきまりについて多面的・多角的に考えている。

(方法：発言・ワークシート)

【評価の視点2】 だれもが気持ちよく過ごせる社会を目指して、自分自身の経験と重ね合わせながら発言したり書いたりしている。

(方法：発言・ワークシート)